CASBEE−建築(新築)2024年版
(仮称)平塚市明石町計画　新築工事

■使用評価マニュア, CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.8**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**3.3**
1 音環境				**2.0**	0.15	**3.2**	1.00	**2.8**
1.1 室内騒音レベル			ー	**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音				**1.0**	0.50	**3.4**	0.50	
	1	開口部遮音性能	住居[T-2]採用	1.0	1.00	5.0	0.30	
	2	界壁遮音性能	ー	-	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	ー	-	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	ー	-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音			ー	-	-	-	-	
2 温熱環境				**2.6**	0.35	**3.0**	1.00	**2.8**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	室温	ー	3.0	0.63	3.0	0.63	
	2	外皮性能	ー	3.0	0.38	3.0	0.38	
	3	ゾーン別制御性	ー	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			ー	**1.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式			ー	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				**3.0**	0.25	**3.6**	1.00	**3.4**
3.1 昼光利用				**3.0**	0.43	**4.0**	0.30	
	1	昼光率	2.0%≦昼光率	-	-	5.0	0.50	
	2	方位別開口	ー	-	-	3.0	0.30	
	3	昼光利用設備	ー	3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				**-**	-	**4.0**	0.30	
	1	昼光制御	住居へｶｰﾃﾝの設置と庇(ﾊﾞﾙｺﾆｰ)設置にて昼光制御	-	-	**4.0**	1.00	
3.3 照度			ー	**3.0**	0.21	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御			ー	**3.0**	0.36	**3.0**	0.25	
4 空気質環境				**4.2**	0.25	**4.2**	1.00	**4.2**
4.1 発生源対策				**5.0**	0.60	**5.0**	0.63	
	1	化学汚染物質	F☆☆☆☆建材ほぼ全面的に採用、またﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ以外のvocについても配慮	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
	1	換気量	ー	3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能	ー	-	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮	ー	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO_2の監視	ー	-	-	-	-	
	2	喫煙の制御	ー	-	-	-	-	
Q2 サービス性能				ー	**0.30**	**-**	-	**2.7**
1 機能性				**2.8**	0.40	**2.6**	1.00	**2.6**
1.1 機能性・使いやすさ				**4.0**	0.40	**3.0**	0.60	
	1	広さ・収納性	ー	-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	ー	-	-	3.0	1.00	
	3	バリアフリー計画	建築物移動円滑化基準を満たす	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**1.0**	0.30	**2.0**	0.40	
	1	広さ感・景観	ー	-	-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース	ー	-	-	-	-	
	3	内装計画	ー	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	ー	3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	ー	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**2.9**	0.30	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	ー	3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	ー	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.0**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	ー	3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	ー	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水はPEP(B)、排水はVP(B)、通気はVP(A)を採用、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	ー	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**2.6**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	ー	2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	ー	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	ー	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	2.5	1.00	2.6
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.0	0.50	
	1	階高のゆとり	―	-	-	2.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	―	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		―	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	―	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	―	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	―	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	―	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	―	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	―	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）			―	0.30	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出		―	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		―	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		―	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		―	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-		-	3.1
LR1	エネルギー			―	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		―	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用（直接利用）		―	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化	住居BEI値0.81		3.9	0.50	-	-	3.9
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.9	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	―	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	―	-	-	-	-	
	4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	―	-	-	-	-	
	4.4	コミッショニングの推進	―	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	―	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	―	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル			―	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		―	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	―	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	―	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減		―	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		―	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		―	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		―	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		―	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	天井や壁にLGSを採用し躯体と仕上が容易に分別可能		4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		―	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	―	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	―	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	―	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境			―	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮	WLC排出率91%		3.3	0.33	-	-	3.3
2	地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止		―	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		―	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	―	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	―	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	―	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	―	-	-	-	-	
	3	悪臭	―	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	―	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	―	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制	―	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	―	3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	―	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		−	○	−	−	○	−	−	○	−	−	−	−	−
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		−	−	−	−	○	−	○	−	−	−	○	○	−
2.4.1 空調・換気設備	−		○	−	−	−	−								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	−	○	−	−	−	−	−						
2.4.3 電気設備	1.0	−	−	−	−	○	−	−							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		−	−	○	−	−	−							
Q3　室外環境（敷地内）															
1　生物資源の保全と創出	2.0		−	−	2.0	−	−	−	−	−	−	−	−		
2　まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	−	−	−	−							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	1.0		−	−	−	−	−	1.0	−	−					
3.2　敷地内温熱環境の向上	8.0		−	1.0	−	1.0	2.0	−	−	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用（直接利用）	−		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
4.1.4 コミッショニングの推進	−		−	−	−	−	−								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			−	−	−	−	−	−	−	−					
2.1　材料使用量の削減	−		−	−	−										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			−	−	−	−	−								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	−	−	−									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	−														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	−	−	−	1.0	−	−	1.0	3.0	−			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	−	1.0	−	−	−							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		−	1.0	1.0	−		−	−						
3.2.2 砂塵の抑制	−		−	−											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		−	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
窓システムSC　−　窓の日射熱取得率（η）−
U値（W/m2K）　窓システム −　屋根 −　外壁 −　床 −
住戸部分　窓システムU値 −　外皮UA値 −　ηAC −　ηAH −

3.1.1 昼光率
昼光率　2.9%

4.2.2 自然換気性能
自然換気有効開口面積率 −

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
執務スペース　−　/人　病床　−　/床　シングル　−　ツイン　−

1.1.2 高度情報通信設備対応
コンセント容量　−　VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
天井高　−　m

1.2.2 リフレッシュスペース
リフレッシュスペース　−　レストスペース −

2.2.1 躯体材料の耐用年数
想定耐用年数　−　年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
想定必要間隔　−　年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
想定必要間隔　−　年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
想定必要間隔　−　年

3.1.1 階高のゆとり
階高　−　m

3.1.2 空間の形状・自由さ
壁長さ比率　−

3.2　荷重のゆとり
床荷重　−　N/m2

Q3　室外環境（敷地内）

1　生物資源の保全と創出
外構緑化指数　−　建物緑化指数　−

3.2　敷地内温熱環境の向上
空地率　−　水平投影面積率 −　地表面対策面積率 −　舗装面積率 −

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
BPI/BPIm　−　断熱等性能等級　等級4 相当

2　自然エネルギー利用（直接利用）
影響範囲の割合 −　採光を満たす教室数 −　採光を満たす住戸数 −
通風を満たす教室数 −　通風を満たす住戸数 −

3　設備システムの高効率化
太陽光　.0kW　太陽熱等　.0kW　蓄電池　.0kWh

非住宅部分
BEI/BEIm　再ｴﾈ有　−　無　−　ｵﾌｻｲﾄ再ｴﾈ有　−　−

集合住宅
一次エネ削減率　再ｴﾈ有　19%　無　19%　−

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
雨水利用率　−

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
特定調達品目　−　エコマーク商品　−　自治体指定の特定品目等　−

2.5　持続可能な森林から産出された木材
使用比率　−

3.2.1 消火剤
オゾン層破壊係数（ODP）　地球温暖化係数（GWP）

3.2.2 発泡剤（断熱材等）
オゾン層破壊係数（ODP）　地球温暖化係数（GWP）

3.2.3 冷媒
オゾン層破壊係数（ODP）　地球温暖化係数（GWP）

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
見付面積比　−　隣棟間隔指標Rw −
地表面対策面積率　−　屋根面対策面積率 −　外壁面対策面積率 −
見付面積Sb　−　卓越風向と直交する最大敷地幅Ws −　m　基準高さHb −　m
緑地　−　水面　−　保水性対策面　−　高反射対策面　−　再帰性反射対策面　−